

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上については、新学習指導要領（算数科）の研修指定を受け、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の在り方を探ってきた。今後は、「なるほどタイム」での取組を他教科等の学習にも取り入れていきたい。 ・児童の実態を把握し、職員間で情報共有を行った上で、児童一人一人の心の成長や学びの定着を支えていきたい。 ・地域の方々との交流や働き掛けを通して、地域の中で育まれている学校の存在を意識し、各種活動に取り組むことができた。 ・学校行事等の見直しを行い、削減や縮小を図ってきた。今後は、職員の業務の精選と効率化を図り、業務改善に取り組んでいきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び、思いやりと元気あふれる子どもの育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	①自ら進んで考え行動する（自ら学ぶ子） ②自他のよさを認め合う（思いやりのある子） ③挨拶の推進・根気強さを育てる（元気のある子）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○算数アンケートにおいて「算数の学習はよく分かる・だいたい分かる」と回答した児童80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内学力向上研修により取組の促進を図る。 ・基礎学力テスト、検定テストを実施し形成的評価を充実させ個別指導に生かす。 ・自分の考えをもち、伝え合う「なるほどタイム」を通して、自分の考えを深めさせる。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○アンケートにおいて「自他のよさがわかる」と回答した児童70%以上。 ○道徳に関するアンケート(年2回実施)において肯定的な回答をした児童生徒70%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・人権集会や道徳に関する振り返りやアンケートの実施 ・学校行事、委員会活動等の中で、よさを認め合うことを意識した取組を行う。 ・年に4回「こころのお天気」アンケートを児童に実施する。 ・児童に関わる情報交換を毎週水曜日に行い、学期1回はグループ協議を行う。							
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化 ○体づくりの推進 ②望ましい生活習慣の形成 ○あいさつのレベルアップ	○始業前や業間、昼休みの時間外遊びをよくすると回答する児童60%以上を目指す。 ○マラソン大会やがんばるマラソン週間を設定し、体力向上や健康な体づくり意識を向上させる。 ○「に・さ・い」の合い言葉のもと、元気な挨拶ができたと回答する児童80%を目指す。 ○日常の挨拶指導を充実させる。	・体育委員会で外遊びの奨励や学年グループごとのスポーツイベント等を企画・運営する。 ・マラソンがんばりカードを作成し、目標をもって体づくりに取り組ませる。 ・あいさつレベルアップを意識して実践するような取組を委員会活動等と連携して行う。 ・家庭や地域にも挨拶の励行を呼びかけ、協力を仰ぐ。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・定時退勤日の実施率70%以上を目指す。 ・全職員で業務内容や働き方について振り返る機会を年2回以上設ける。	・定時退勤日を設定し、職員の意識を高める取組をする。 ・学校閉庁日の設定 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、課題の早期解決に努める。							
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールの実践 ○家庭、地域との連携 ○学校からの情報発信	○小中合同による学校運営協議会を年4回開催し、会議の充実とともに小中合同の取組を通して連携を深める。	・学校運営協議会では、学校経営方針等理解を得て、地域連携団体との体験活動等を計画的に進めていく。 ・児童の学習や生活の様子を伝えるため、毎月学校便りを発行し、地域でも閲覧してもらう。			
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員60%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育